

Japanese Society for Day Care Treatment

日本デイケア学会

NEWS No. 7

日本デイケア学会広報委員会
2003年3月20日 発行
日本デイケア学会事務局
〒160-0023 新宿区西新宿6-7-1
東京医科大学精神医学教室内
TEL: 03-3342-6111
FAX: 03-3340-4499
E-mail: info@daycare.gr.jp
URL http://www.daycare.gr.jp

病院治療共同体を越えて デイケアを含む地域共同体へ

理事長 加藤 正明

第8回デイケア学会総会は、石川県加賀市の文化会館において、福祉法人共友会理事長の岩尾 貢氏（デイケア学会理事）を会長に行われます。同氏は精神保健福祉士として永く精神障害者の社会復帰に努力して来た方です。

今回の総会においても、昨年から展開されて来た精神病院の変化に伴う社会的入院患者の地域ケアをいかにして協力して行けるかという問題について、医療の立場と福祉の立場から話し合っていこうというもので、今回もランチョン・ミーティングなどの機会を与えて下されば幸いです。

現在進行している精神障害者の地域医療福祉共同体活動とは、全国の市町村単位にセンターを設けて、精神障害者家族とホームヘルパーの教育を行い、ホームヘルプ・マネジメントを増強するとともにグループホームを増設し、精神科病院と精神科診療所の精神科医師、看護師及びコメディカル・スタッフと、精神科福祉施設のコメディカルスタッフ（特に精神保健福祉士）とが共同して、薬物維持療法、個人及び集団精神療法（SSTを含む）などや家族指導を行い、患者の自立を推進してゆく。デイナイトケアや作業所も増設されて、入所者や就業者も増え、日本の精神科病院に残された〔社会的入院患者〕の内、7万2000人を10年間に地域医療で扱い、日本の人口1万人対25人を欧米並に半減させることを目的としています。

このような状況の中で、デイナイトケアの果たす役割は大きく、地域医療福祉計画の中で、ホームケア、グループホーム、パーシャルホスピタライゼーションとならんで、デイナイトケアが特に精神科診療所の参加を不可欠のものとして、規定されることを希望したいと思います。

（東京医科大学 名誉教授）

加藤先生は、3月11日お亡くなりになりました。これが生前最後の原稿となります。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

第7回年次大会“手をつなぎ、 より添う暮らし”を終えて

弘末 明良

平成14年9月13日から15日にわたり、日本デイケア学会第7回年次大会を、水戸の県民文化センターにおいて無事終えることができた。講師やシンポジスト、司会や座長の労をとってくださった方々に心から感謝申し上げる。

開催期日は、会場予約の都合で週日となってしまったが、「休日だったら出られたのに」という声を多数聞き、今後の参考になった。

研修会への参加者が予想以上に多く、これは、おそらくどの地方でも学会会員としての大会参加より、まずは日常業務の向上に役立つ研修への要望が強いことを反映していた。

基調講演「精神科デイケアの今日的課題」は、クボタクリニック院長・本学会理事の窪田 彰先生にお願いした。詳細は、学会誌をご覧ください。

特別講演「認知リハビリテーションの可能性：アルツハイマー病（AD）への試み」では、筑波大学精神医学教授朝田 隆先生が、ADの患者さんに音楽療法や美術療法、有酸素運動を行い、記憶・言語障害の代償機能の向上と注意・遂行機能の向上を図り脳機能画像により実証できること、その背景に幹細胞による神経細胞再生の可能性があることを話された。

公開講座は「お年寄りのリハビリテーションとデイケア」と題して、茨城県立医療大学附属病院長大田仁史先生にお願いした。介護予防と在宅リハビリテーションのための地域ケアシステムの拡充の重要性、「住民ヘルパー3級運動」として高校生のホームヘルプ参加について語られた。この試みは、今世紀の精神福祉デイケア・ホームケアにも波及させなければならない動向である。

シンポジウムⅠ「介護保険制度下における連携のあり方」、シンポジウムⅡ「デイケアと社会復帰施設間の連携・ネットワーク」の詳細は、学会誌をご覧

いただきたい。

ランチョンミーティング「精神保健福祉総合計画について」は、今回、加藤正明理事長の提案により、司会は私が担当してそうそうたるパネリストに登場願ひ、昼休みにパネルディスカッション形式で開かせていただいた。450人収容の小ホールは満員であった。加藤理事長は「社会的入院患者の社会復帰のためのデイケアとホームケア」と題されて、低医療費政策が生み出した現実問題としての多数中高年社会的入院患者の存在、保健医療側からの福祉への参入

と特別な経済的措置による社会復帰・ホームケア・デイケア等充実の必要性について、力強く話された。その後、窪田 彰、柏木 昭、斎藤和子の各役員、次期大会長の岩尾貢氏が、加藤先生の話のいろいろな角度から論じ肉付けし、様々な提言がなされた。

地域精神保健福祉計画の課題は、とても予定時間内で論じることなどでできず、次の大会につながることになった。

(茨城県立友部病院 院長)

◎日本デイケア学会第8回年次大会◎

趣 意 書

平成14年度から精神障害者居宅生活支援事業が運用され、平成15年度からは精神障害者を含む障害者ケアマネジメントの本格実施を見ることとなり、精神障害者福祉はいよいよ市町村の時代に入りました。同時に精神医療においてもこのような近年の流れの中でコミュニティケアに視点を置いたデイケアの役割を振り返る時期になっています。

精神医療分野では、デイケアを集中的な外来治療の一環として意味づける方向性が掲げられ、多くの医療機関において実施されて、一定の成果が見られます。しかし、その中で狭義の治療効果のみに焦点をあて、利用者が地域で生活する生活者であるという視点が軽視されれば、地域に根ざしたコミュニティケアとしてのデイケアの機能を失う危険性があります。従ってデイケアにおいては生活概念を導入し、医学モデルと生活モデルの均衡ある調和を目指したあり方が問われています。

一方、介護保険制度下における通所サービスでは、利用者の個別のニーズを捉えてサービスを提供することよりも、画一的なサービスを提供してしまう傾向がないとは言いきれません。また、サービスの質が確保されていないため、利用者のニーズが満たされない状況が起きたり、認定された要介護度毎に支給限度基準額という枠があることによって選択の幅が狭められ、多様な福祉サービスを必要としている高齢者が安心して生活することが困難な状況も起きています。現在の介護保険におけるケアマネジメントはサービス優先主義で、経済効率を重視しがちな傾向があり、そのことがサービスを受ける利用者にも負の影響を与えています。そのため、サービスを提供する現場では問題意識を持ちながら、通所サービス提供者としてどうあるべきか悩んでいる方も多いと思います。介護保険のケアマネジメントが抱える課題を検討すると共に、通所サービスそのもののあり方についても今一度整理、検討を行うことが求められているのではないのでしょうか。地域生活をより豊かに送りたいと願う通所サービス利用者の福祉ニーズは多岐にわたってきています。これらのニーズに幅広く対応できるよう、利用者の個性を重視し、個々の地域生活に寄り添った関わりが持てるよう、職員の質の向上を図ることも必要とされてきています。

また、障害者のケアマネジメントや支援費制度導入、さらに三障害の介護保険統合化への議論に際し、介護保険のケアマネジメントの問題点等を検証することで、利用者の自己決定に基づいたサービスを提供することになれば、介護保険制度下での経験や現場で働かれている方の苦悩が活かされるのではないかと思います。

そこで、老人分野の通所サービスと精神医療分野のデイケアに従事する医療、保健、福祉の様々な職種が一堂に会し、交流できるデイケア学会で、上記のような問題について意見交換が出来ることは大変意義があることと思われます。そこで、日本デイケア学会第8回年次大会では「コミュニティケアを考える～デイケアの方向性と役割～」を大会テーマに掲げました。

なお第8回年次大会では公開講座を開くことで、地域の方ともコミュニティケアについて一緒に考え、地域生活支援の中でのデイケアのあり方について議論を深め、更なるデイケアの発展と向上を目指したいと考えております。

会員の皆様を始め、日夜デイケアの最前線でご活躍の方々、また関係者の方々、あるいはデイケアに深い関心を寄せておられる方々多数のご参加をお願い致します。

2003年2月21日

日本デイケア学会第8回年次大会のご案内

大会テーマ 『コミュニティケアを考える
～デイケアの方向性と役割～』

会 期 平成15年9月18日(木)・19日(金)・20日(土)

学 会：平成15年9月18日(木)・19日(金)

研修会：平成15年9月20日(土)

会 場 加賀市文化会館・ホテル百万石

〒922-0243 石川県加賀市山代温泉北部2丁目68番地

Tel: 0761-77-2811 (代)

大会長 岩尾 貢 (矢田野ファクトリー理事長)

基調講演：岩尾 貢 先生 (社会福祉法人共友会理事長)

記念講演：今田 寛睦 先生 (国立精神・神経センター精神保健研究所所長)

特別講演：越野 好文 先生 (金沢大学医学部脳情報病態学教授)

シンポジウムⅠ：「コミュニティケアは可能か
～デイケア(デイサービス)を切り口にその条件を探る～」

シンポジウムⅡ：「より豊かな地域生活を支えるために
～通所サービスの果たす役割～」

シンポジウムⅢ：「地域生活支援としての精神科デイケアの方向性を考える
～多様化しているニーズと障害者ケアマネジメント～」

◎演題募集について◎

日本デイケア学会第8回年次大会では、デイケアに関する演題を広く募集します。演題を申し込まれる方は、下記の募集要項と注意・注意事項をお読みの上、「分科会演題申込用紙」「演題抄録原稿」をご送付下さい。

〈募集要項〉

- 演題発表は、日本デイケア学会会員に限ります。非会員の方は、申込みの時点で入会手続きを取り、会員としての承認を得て下さい。学会に入会される方は、入会申込 (P6) を参照して下さい。
- 演題発表は1演題15分、質疑応答を5分予定しております。
- 演題を申し込まれる方は、「分科会演題申込書」に必要事項を記入の上、FAX 又は E-mailにてお知らせ下さい。(アドレスは「問い合わせ先」欄参照)
- ホームページでも「分科会演題申込書」用紙 (Excel) をダウンロードできますのでご利用下さい。
- 演題抄録原稿中、図表の掲載は困難ですので、当日発表の際、スライド・パワーポイント等をご用意下さい。

〈抄録作成の記入例と注意事項〉

- ①「演題抄録原稿」はA4版1枚に演題・演者名（○印とふりがな）・共同演者名・各所属先・内容抄録（1200字以内）を記載して下さい。抄録原稿は横書きでワードプロセッサ・パソコンプリンターにて印字して下さい。（記入例と注意事項参照）
- ②E-mailをご使用の場合は、今大会アドレスまでご送信ください。「演題抄録原稿」については、word（一太郎は不可）にて作成し、E-mailに添付しご送信下さい。
- ③設定は「用紙サイズA4、余白上20ミリ、下20ミリ、左20ミリ、右20ミリ」に設定して下さい。本文、演者名の文字の大きさは10.5ポイントで、ページの設定は38文字/行、45行/頁にし、字体は明朝体を使用して下さい。

記入例：

演題は明朝体を用い、大きさ太さは自由に

○加賀 太郎 (□□病院) 金沢 花子 (デイケア□□)

[illegible]

- 当日、スライド・パワーポイント等の機種の使用については、「分科会演題申込書」に記載して下さい。パワーポイントはOfficeパワーポイント (Win) のみに限らせて頂きます。また、パワーポイントを使用される方は、データをフロッピーディスク又はCD-ROMに保存して、9月4日(木)までに郵送にて事務局までお送り下さい。
- 演題申込み締め切り後、演題の採否及び発表会場や発表時刻について「日本デイクケア学会第8回年次会運営委員会」で協議の上、各演題申込者に文書又はE-mailにてご連絡致します。

〈演者の方への注意事項〉

- 発表内容について、個人や団体を対象とする場合、対象の基本的人権を尊重し、プライバシーの保護に考慮して下さい。そのために、個人や個別の団体名が特定されないような措置を講じて下さい。
- 演題抄録にプライバシーの侵害が危惧される場合や、偏見、差別的な用語や内容が認められる場合には、問い合わせの上訂正を求めることがありますので、ご了承下さい。

〈演題申込み及び演題締め切り〉

- 「分科会演題申込書」「演題抄録原稿」の両方を下記の締め切り日までにお送り下さい。

「分科会演題申込書」… 平成15年4月25日（金）必着

「演題抄録原稿」……………平成15年7月25日（金）必着（E-mailも同様）

〈問い合わせ先〉

ご不明な点につきましては、下記までお問い合わせください。

○演題申込み及び連絡先

〒922-0831 石川県加賀市幸町2丁目60番地

社会福祉法人 朋友会 担当：森・山田・守家

TEL : 0761-72-4545 FAX : 0761-72-7030

今大会ホームページ：<http://www6.ocn.ne.jp/~hoyukai/daycare.htm>

大会専用E-mail : daycare8@vega.ocn.ne.jp

○学会入会について

日本デイケア学会第8回年次大会に演題発表したい方で学会に未加入の場合は、お問い合わせの上、演題申し込みの前に入会手続きをお済ませ下さい。

デイケア 西から東から、北から南から…

「賀茂病院デイケア」の紹介

斉藤 保恵

当院は、広島県にあり430床の精神科単科の国立療養所である。呉市より北方に約22kmに位置した賀茂郡黒瀬町にあり、人口約2万人の周囲を山に囲まれた田園が広がるのどかな町である。県内でいち早く精神科リハビリテーション活動を取り入れ、精神科デイケアも1979年より活動を開始し、1987年7月に大規模デイケア病院併設型の施設認可である。週3回の活動、登録者は約30人、1日の平均利用者は15人前後である。ほとんどの利用者が統合失調症である。

ここ10年メンバーの年齢層も10歳代～60歳代と幅広くなり、特に20歳代と50歳代以上の二極化が進んでいる。若年層は、進学や就労、作業所に向けて体力作りや準備期間として利用の人が多いため、スポーツや知識の習得に関心が高い。一方50歳代の中老年層は行き場として利用する人が多く、くつろいで室内でゆっくり過ごすことを希望する。そのため、一つのグループで活動を行うことは困難になった。そこで、個々のニーズに応じて選択できるように、スポーツで体を動かす活動と室内でゆっくりする活動を取り入れ少人数での活動もできるようグループの枠組みを変えた。

活動内容もSSTや心理教育で病気や薬、社会資源についての知識習得のプログラムを取り入れた。今後は、ライフサイクルを考慮し中老年層には生活習慣病、若年層には就労についての講座も取り組む計画をしている。

また、これまではデイケアが地域との交流する場がなく、活動も院内で完結し幅が狭くなった。そのため、2年前よりボランティアの人たちをグループに導入する。スポーツ、料理の活動を共に行うことで、メンバーがボランティアにルールを説明したり、勝利を目指して協力したりと交流がみられている。デイケアを利用しメンバーや地域の人がお互い理解しあう場として機能している。現在は隣の市に地域生活支援センター、同じ町内に共同作業所もでき、デイケアだけの人、デイケアと作業所、支援センターと個人の生活に応じた選択をされ、メンバーの生活の範囲も広がりつつある。

今後は、病院の中だけで完結することなく、地域にある施設との連携をとりながら、障害者の人たちの生活支援ができればと考えている。

(国立療養所賀茂病院 看護師)

「医療法人(社団)和敬会谷野医院・総曲輪デイケアセンター」の紹介

小田 良光

当法人は、精神科クリニックとしての谷野医院と、310床の許可ベットを有する谷野呉山病院の2つの医療機関を開設・運営しています。また、精神障害者を地域で支えるために、独自の「地域サポートネットワークシステム」を確立し、当診療所が中軸となり精神障害者の在宅支援に取り組んできた歴史があります。

当診療は、谷野呉山病院を退院した多くの患者様や近隣に生活する精神障害者の方が通院し、治療・社会復帰支援を行う、都市型サテライト式の役割をもっており、サポートネットワークシステムを活用し、これまで多くの精神障害者の支援を行ってきました。

さて、サポートネットワークの機能の一つである「総曲輪デイケアセンター」は、「日中リハビリを中心に過ごす場」「生活のリズムを整える場」「社会参加をしていく場」として、昭和55年9月に当診療所に併設・開設された小規模精神科デイケアです。全国的に見ても開設が古く、診療所併設型のデイケアとしては、全国初の開設でした。

当センターは、通所者のニーズに合わせ、デイケアを週6日、デイナイトケアを週3日開催しています。運営は、若い世代のグループと中老年世代のグループの2つのグループで行われています。若い世代のグループでは、パソコンを使っている機関紙作りや就労支援プログラムなどを行い、中老年世代のグループでは、生活の幅を広げる企画や生活を楽しむレクリエーションなどを行っています。

このようにグループ構成はしているものの、当センターも多く課題を抱えています。歴史の古いデイケアセンターであるため、長期間利用している通所者が多く在籍しています。その通所者に「どのように向き合い、自立支援を働きかけるか」ということやデイケア以外の地域支援プログラム(当法人の社会復帰メニュー)への移行の検討などがあげられます。また、谷野呉山病院にもデイケアセンターが、平成13年4月にオープンし、同一法人の中に2つのデイケアが存在することになりました。連携を図りながらもそれぞれのデイケアの運営特徴を明確にしていくことも必要となってくると思います。

最後になりましたが、デイケアスタッフである私は、これからも「医療から地域への橋渡し」というデイケアの役割を大切にしつつ、今後も関わり続けていきたいと思っています。

(総曲輪デイケアセンター所長 精神保健福祉士)

日本デイケア学会役員(平成12年9月5日第5回年次大会総会)

理事長：加藤正明、副理事長：小林曜佳(事務局長)、斎藤和子、監事：佐々木勇之進、柏木昭
理事：浅野弘毅、池田良一(事務局次長)、岩下覚、榎本稔、大丸幸、大森文太郎、岡部紘一、萩原健志、越智浩二郎、
小野寺敦志、佐々木千鶴子、高林健示、弘末明良、古屋龍太、松永宏子、松田ひろし、良田麗明

評議員：五十音順

浅井邦彦(DR千葉)、浅野弘毅(DR宮城)、池田良一(DR東京)、伊藤祐喜(DR東京)、岩下覚(DR東京)、内田洋一(OT茨城)、
榎本稔(DR東京)、大丸幸(OT福岡)、大森文太郎(DR岡山)、岡部紘一(心理 東京)、萩澤健志(心理技術 東京)、
越智浩二郎(心理 千葉)、小野寺敦志(心理 神奈川)、加藤野洋二(DR大阪)、柏木昭(PSW埼玉)、加藤正明(DR東京)、
川副泰成(DR千葉)、菊地頌子(保健婦 東京)、窪田彰(DR東京)、熊倉徹雄(DR福島)、栗原活雄(PSW東京)、栗原毅(CP千葉)、
小杉好弘(DR大阪)、小林曜佳(DR東京)、小谷野博(CP東京)、斎藤和子(NS千葉)、佐々木千鶴子(PSW宮城)、佐々木勇之進(DR福岡)、
清水宗夫(DR東京)、菅野圭樹(DR福島)、高江州義英(DR沖縄)、高林健示(CP東京)、武田専(DR神奈川)、田中英樹(PSW佐賀)、
富岡昭子(OT長野)、内藤清(OT神奈川)、長瀬輝誼(DR東京)、西園昌久(DR福岡)、平川淳一(DR東京)、平田豊明(DR千葉)、
弘末明良(DR茨城)、藤井康男(DR山梨)、古屋龍太(PSW東京)、穂積登(DR東京)、堀内久美子(OT東京)、松田孝治(DR大阪)、
松田ひろし(DR新潟)、松永宏子(PSW東京)、山中恵子(OT東京)、良田麗明(DR神奈川)

委員会

渉外委員会：弘末明良(委員長)、岩下覚、榎本稔、岡部紘一、斎藤和子、小林曜佳(事務局)、池田良一(事務局)
広報委員会：榎本稔(委員長)、栗原活雄、小谷野博、高林健示、竹田裕明、古屋龍太、良田麗明、小林曜佳(事務局)、池田良一(事務局)
研修委員会：松永宏子(委員長)、川副泰成、栗原毅、小林政子、内藤清、小林曜佳(事務局)、池田良一(事務局)
編集委員会：浅野弘毅(委員長)、萩澤健志、小野寺敦志、川副泰成、山中恵子、小林曜佳(事務局)、池田良一(事務局)
(査読委員：岩下覚、佐々木千鶴子、田中英樹、松田ひろし)
施設基準と倫理委員会：小林曜佳(委員長)、小野寺敦志、窪田彰、菅野圭樹、長瀬輝誼、平川淳一、古屋龍太、松永宏子、
池田良一(事務局)

入会申込

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更されました。

現在約800名の会員があり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めておりますが、今後幅広くその他のデイケアおよび関連分野で活躍されている方々の参加も望まれます。また、年次大会は一昨年は高知で、昨年は水戸市で開催されました。今年度は9月に石川県加賀市で開催されます。

1. 入会申込書

入会申込書、入会案内、会則、および郵便振込用紙をお送りいたしますので、下記事務局までご連絡ください。

2. 入会金および年会費

正会員：入会金1,000円+十年会費8,000円=9,000円

団体会員：3名までは、入会金5,000円+十年会費20,000円=25,000円

(3名を越えるときは、1名につき年会費5,000円を加算してください)

3. 資格(会則の一部を引用します)

正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。

団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。

4. 事務局

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1 東京医科大学精神医学教室内 日本デイケア学会事務局 池田良一

TEL: 03-3342-6111, FAX: 03-3340-4499, e-mail: info@daycare.gr.jp

URL: http://www.daycare.gr.jp

日本ディケア学会第8回年次大会 分科会演題申込書

都道府県			
演題名			
ふりがな		演者会員番号	
演者氏名			
所属			
所属先住所	郵便番号：		
電話		FAX	
E-mail			
※上記以外に連絡先が必要な場合はこの欄にご記入ください。			
共同演者氏名	所 属		
発表時の使用機材の有無（該当する欄1つに○印）			
OHP		スライド	
		Windows パワーポイント	
		使用無し	
演題内容要旨（200字程度でプログラム編成にあたって内容が分かるように簡潔に記入して下さい。）			

※演題申込み締め切りは平成15年4月25日当日消印有効です。